



® 平成 30 年 4 月 20 日 (金)

No. 14673 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (32) … (1)

☆知的財産関連ニュース報道(韓国版) …… (9)

☆知的財産研究会(判断手法の違いから考える日米欧の進歩性) (12)

地域における観光と知的財産の関連性 (32)

東京理科大学大学院 経営学研究科

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

29. 福岡県久留米市(商標権、実用新案権、特許権)

福岡県久留米市は、県南部の中核都市で、九州自動車道と大分・長崎自動車道のクロスポイントにも近く、国道3号ほか5つの国道が通る九州の交通の要諦である。福岡市、北九州市に次いで福岡県では第3位、九州全体では第8位の人口を擁している。

久留米市は筑後川の中流域にあり、九州の米どころである筑後平野の中央部にあたる、肥沃な大地に

恵まれている。

しかし、江戸時代の久留米藩(21万石)は、筑後川の洪水、災害により藩の財政は苦しく、商品作物の生産が奨励された。酒、木蠟、油などの農家による副業的な商品作物の産地としても有名であり、久留米、八女、朝倉などの産地から、九州各地にこれらの地場商品が行商によって流通していた。この地場商品が大正から昭和にかけて、地域の基幹産業となったゴム製品製造業の契機となり、久留米の発展



鈴榮特許総合事務所
SUZUYE & SUZUYE

〒105-0014 東京都港区芝3丁目23番1号 セレスティン芝三井ビルディング11階
電話 東京03(6722)0800(大代表) URL <http://www.s-sogo.jp/>

所長 ○弁理士 蔵田 昌俊(電気・通信)
副所長 ※弁理士 野河 信久(電子・通信)
理事 弁理士 鶴岡 健(生命工学)
理事 弁理士 矢頭 尚之(電子・通信)
常務顧問 弁理士 井関 守三(電子・通信)
△※弁理士 岡田 貴志(電子・ニューヨーク州弁理士)
弁理士 永島 建治(機械)
※弁理士 角田さやか(機械)
※弁理士 清水千恵子(海外商標)
※弁理士 矢野ひろみ(海外商標)
※弁理士 馬淵 繁(電気・通信・情報処理)
弁理士 土田 新(機械・バイオ)
弁理士 石井満和子(商標意匠・不正競争)

所長代行 ※弁理士 小出 俊實(商標意匠・不正競争)
□弁理士 金子 博人(知的財産法務)
理事 弁理士 飯野 茂(物理・計測・分析)
常務顧問 ※弁理士 峰 隆司(電気・電子・通信)
※弁理士 佐藤 立志(電子・通信・ソフトウェア)
※弁理士 堀内美保子(化学・バイオ)
※弁理士 宮田 良子(電気・電子)
※弁理士 朝倉 傑(電子・通信)
※弁理士 石川 真一(機械・バイオ)
弁理士 片岡 耕作(機械・制御)
弁理士 飯田 浩司(機械・電気・バイオ・医療機器)
弁理士 辻本 典子(バイオ)

所長代行 弁理士 福原 淑弘(電気・電子・通信)
主 監 弁理士 井上 正(電子・情報・通信)
理 事 弁理士 森川 元嗣(機械)
常務顧問 弁理士 河野 直樹(化学)
※弁理士 幡 茂良(商標意匠・不正競争)
※弁理士 金子 早苗(化学)
弁理士 堂前 俊介(電気・電子)
※弁理士 橋本 良樹(商標意匠・不正競争)
弁理士 中島 千尋(機械・制御)
弁理士 柴田紗知子(物理)
弁理士 中丸 慶洋(電子・情報処理)
弁理士 佐藤明日香(電気・通信)

○米国パテントエージェント(合格) ※付記弁理士(特定侵害訴訟代理) △ニューヨーク州弁理士 □顧問弁理士

【顧問法律事務所】弁理士法人 内田・鮫島法律事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目10番1号 虎ノ門ツインビルディング東棟16階 電話(03)5561-8550(代表) FAX(03)5561-8558 URL <http://www.uslf.jp/>

に大きく貢献した。

近年では福岡市のベッドタウンとしての機能が強まっている。

今回は、地域の地場産業がグローバルに活躍する企業となる地域の知的財産と現在の観光の様子を見ていく。

(1) 地理¹

九州の北部、福岡県南西部に位置し、九州の中心都市である福岡市から約40キロメートルの距離にある。東西32.27km、南北15.99kmと東西に長い形状を示し、行政面積は229.96km²である。

地勢は、市の北東部から西部にかけて九州一の大河である筑後川が流れ、筑後川に沿って南側を東西に耳納山、高良山、明星山などの山々が連なり、この川によって形成された広大な沖積平野の平坦地に続いている。

気候は、内陸型の有明気候区に属し、気温の年較差や降水量の年変化が大きいものの雪は少なく、温暖で四季の変化に富んでいる。

図1：久留米市の地図



(2) 歴史^{2,3,4}

久留米の歴史は古く、約2万年前の旧石器時代からと考えられている。温暖な気候と豊かな水と土の存在があることと、大陸からの稲作伝来の地と言われる「吉野ケ里遺跡」にも近いことから、全国的にも早い時期より稲作が始まったと推測できる。

その後、古代国家においては、地方政庁である筑後国府が設置され、北部九州の行政・交通の要衝となった。

平安時代末の1164(長寛2)年、草野永経が肥前国高木(現佐賀市)より市東部へ入国し、以来約400年間治めた。

戦国時代には大分の太田宗麟が覇を唱えたが、1587(天正15)年、天下統一に向かった豊臣秀吉は兵25万を率い、九州平定のため、また島津討伐を目指して九州入りした。筑前で島津方の勇将秋月種実が秀吉の軍勢に圧倒されて降伏すると、九州の大小の大名は雪崩を打つように降伏した。やがて島津も降伏することとなった。

中国と朝鮮討伐を目論んでいた秀吉は、筑後川が開いた肥沃な土地と水運の良い筑後を重要視した、五大名を置いた。秀吉亡き後に起きた関ヶ原の戦いで石田三成を生け捕りにした田中吉政が五大名の領地をすべて引き継ぎ、1601(慶長6)年に筑後32万石の大大名となった。田中吉政の子の忠政は36歳で他界し、子が無かったため、幕法により家は断絶となった。

1621(元和7)年、丹波福知山藩8万石の藩主の有馬豊氏が入国して21万石を相続して1869(明治2)年まで11代の城主がこの地を治めた。栄転と思ったら久留米城は城とは名ばかりの建物で櫓や本丸が破却されていたので雨風を凌ぐ場所さえ無かった。

城の構築に普請する中、1637(寛永14)年に島原の乱が起こったため、久留米藩の出兵が要請され、更に藩の財政が更に窮地に陥った。初代は藩政の立ち上げにかなり苦勞し、その後の藩主も変わりが多く藩政は250年間火の車だった。

幕府封建制度では武士に見切りをつけるものも出てきた。中でも成功したのが福知山から豊氏に随行してきた浪人の石原又兵衛の弟の与右兵衛と八郎左衛門である。与右兵衛は城下の建築ブームを見て「木屋」を興し、材木商で成功した。八郎左衛門は長崎に修行に出て「長崎屋」を開業した。このように経済界に羽ばたく雰囲気のある藩だったようだ。

1871(明治4)年の廃藩置県で久留米県が成立し、同年11月に三潞県となり県庁が久留米に置かれた。1889(明治22)年に全国の38市とともに市制を施行し久留米市となった。

明治中期から「久留米の3しゃ」と呼ばれる「芸者、医者、人力車」の3つが有名だった。医者も芸者も久留米が九州一の筑後平野における農業の中心地として繁盛し、そこに産業が興って全国からお金が集まっていたというのがその理由である。人力車というのは、明治の初めに博多の人が発明したそうである。駕籠では二人で一人を運んでいたので大変な運送革命であった。

久留米でいち早く人力車が普及したのは商業の